



新発田市立紫雲寺小学校

# 学校だより

12月1日号

<http://shionjies.shibata.ed.jp>

## 「本を読む」ということ

校長 土田 志津子

「学校で毎朝始業前に、生徒も教師も一緒に自分の好きな本を読むという『朝の読書』は、今や28,000校を越える小・中・高校で実施され、児童生徒数は約970万人と広がった。」という話を読みました。この「朝の読書」が25周年を迎えたとも書いてありました。

「生徒一人一人に家庭があり、人生のドラマがある。その生徒たちが抱えている心模様、葛藤、苦しみ、悲しみ、辛さ、悔しさを癒やし、励ましてくれるのが『朝の読書』ではないだろうか。言い換えれば、勇気や希望を自分に与えてくれるのが『朝の読書』の時間だと思う。」ということも書いてありました。



【「読み聞かせ」…ボランティアの松田さんから】

ある方が、地域における道徳運動の一環として「朝の読書」の普及活動に努めているという記事を読んだことがあります。また、いじめの未然防止策の7つのアイテムの一つに「読書」が挙げられています。・・・何より、読書のよさは、読書経験のある人なら誰でも分かると思います。

紫雲寺小学校では、昨年度から「朝の読書」を取り入れています。月曜日から木曜日までの8時15分から10分間です。①みんなでやる、②毎日やる、③好きな本でよい、④ただ読むだけの活動です。全校で行うと・・・校舎の中が、誰もいないのではないかとと思われるほど、静寂の時間が流れていると感じることがあります。一人一人の子どもが、本に没頭している姿を見て、その心を想像すると微笑ましくなります。たった10分間ですが、心や人生にとって“宝の時間”のような気がしてきます。

また、毎週木曜日は、地域の松田さんが、読み聞かせボランティアをしてくださっています。年齢や季節を考えて本を選んで来てくれます。時には説明を加えて、優しく語りかけてくれる読み聞かせです。子ども達は、吸い込まれるように聞いています。ありがたいなあと思っています。

さらに、11月は、校内読書月間でもありました。普段の読書活動に加えて、「お気に入りの本紹介」や「親子読書」、図書館支援員の赤松さんによる「図書クイズ」などの活動も実施しました。いつもよりは図書館に足繁く通う子どもの姿がありました。

本を読むことが好きという感覚や習慣は、子どもの時に体験させて、身に付けさせておくべきことに思います。ご家庭でも、例えば、ねる前の10分間読書など取り入れてみませんか。

- 松田さんの読み聞かせはすごく好きです。松田さんは、困った場面などで首を傾げて読んでくれるのですごく大好きです。
- 松田さんは、特に日本の昔話などを読んでくれて、知らないお話が多いのでいいです。
- 知らない本を読むと、楽しくなります。



【紫雲寺小学校「朝の読書」10分間タイム】

# 冬季の健康管理について

養護教諭 皆川 俊

冬の病気といえば、何と言っても「かぜ・インフルエンザ」です。毎年多くの人がり患し、学級閉鎖などの措置がとられることもしばしばです。中でもインフルエンザは感染力が強く、家族や友人がり患すると高い確率でうつってしまいます。次のような注意をして、インフルエンザを予防しましょう。

## 1 患者に近づかない、人混みをさける！！

家族や友人がインフルエンザになったら、無用な接触を避けましょう。感染力が強く、体の中に入るとあっという間に増えてしまいます。また、人が多くいる場所は、ウイルスを持った人がいる可能性があります。流行期には、無用な外出は避けた方がよいでしょう。



## 2 手洗い・うがいの励行



ウイルスをなるべく体内に入れないことが大切です。外出後やトイレの後、食事の前などにこまめに手洗い・うがいをしましょう。アルコールでの消毒もいいですね。

## 3 マスクをする

特にかぜをひいている人は、ほかの人にうつさないようにマスクをしましょう。咳やくしゃみで空気中に出たウイルスは、半日以上漂っているそうです。

また、マスクをするとのどの乾燥を防ぎ、粘膜の働きも良くなります。家族がインフルエンザにかかったら、念のため必ずマスクをしましょう。

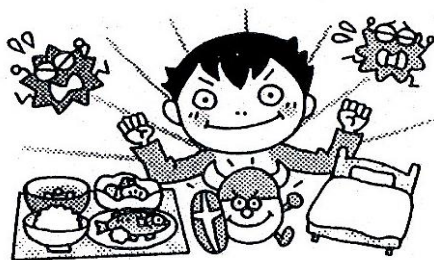
## かぜの症状があるとき



## 人の多い場所に行くとき



## 4 十分な休養と栄養・保温を！！



やはり一番大切なのは、ウイルスに負けない健康体づくりです。早ね・早おき・朝ごはん、バランスのとれた食事で体力・抵抗力を高め、気温にあった服を着て、体を冷やさないように心がけましょう。

そして、かかったかな？と思ったら、早めに受診しましょう。



# 旅と息子と私

大森 博



自然や旅行が好きな私は、採用当初からお気に入りのツアーを見つけ、毎年参加していました。それがやみつきになり、これまでに何度か夏に北海道、冬に沖縄や九州へ行く機会を得ました。数年前までは、何とか時間を捻出し、毎年これらの旅行に出かけていました。北海道の雄大な大自然や野生動物、沖縄の南国の原生林や珊瑚礁。どちらもスケールが大きく、しかも対照的な動植物や景観に触れることができ、自然の素晴らしさに大いに感動しました。

さて、こんな気ままな旅も、3年前に終わりを告げる、人生の大きな転機が訪れました。最愛の妻と出会い、3年前に結婚し、翌年息子が生まれたことです。現在2歳5ヶ月位です。おぼつかないながらも、よろけながら全力疾走したり知らぬ間に至る所へ移動し、高い場所によじ登って飛び降りたりと、毎日ハラハラさせられています。我が家の暴れん坊将軍です。自分の子どもができてから、学校で接する子どもたちを見る目が少し変わってきたような気がします。子ども一人一人の行動には意味があり、その子の考えがあります。子どもの生命（いのち）の尊さと大切さ、安全への配慮をより大事にするようになりました。これまで以上に子どもの見とりが深まってきたように思えます。いいことです。



これからの一番の楽しみは、息子が大きくなったら、家族みんなで旅行に行くことです。夫婦二人とも大の旅行好きです。しかも硫黄のにおいが漂う温泉地が好きです。5歳を過ぎれば、遠出の県外旅行、京都旅行ぐらいはできるかなあ??と考えています。いずれは、北海道や沖縄・九州旅行に行きたいものです。

しかし、残念ながらまだ長旅は無理なので、近場の温泉旅行で我慢しています。息子は、まだ1歳にも満たない時、すでに温泉デビューを果たし、咲花温泉や月岡温泉に泊まりました。今後は、各地の温泉地を制覇してみたいです（ただし、安いプランに限る！）。なぜこれらの温泉地かと言うと…！、硫黄泉で無料の貸切風呂があり、「赤ちゃんプラン」があるからです。小さい子のいる家族にとっては、結構至れり尽くせりで、宿泊代も割合安いなかなかよいプランです。今年はずいぶん、県外の山形県へ旅行「蔵王国際ホテル」に行くことができ、うれしい限りです。

そのおかげか、息子はお風呂に入ることが大好きになり、家でもゆったりと湯船に浸かっけていて、長湯です。とても気持ちよさそうに入り、上がった後はすぐに寝てしまいます。まさに温泉のおかげです。

息子が20歳（はたち）になるまで、家族みんなで温泉旅行を続けていきたいですが、それには70歳近くまで、元気に頑張らなければいけません。「がんばれ！ファイトだ！お父さん！」です。

## エッセー・コーナー

このページは、毎月、学校教職員のエッセーを掲載します。紫雲寺小学校に勤めているわたし達の素顔の一部を知っていただき、学校と保護者、地域の皆さまとの距離を近づけたいと考えました。「同感！」「新発見！」など気軽に声をかけていただき、話が弾むことを期待しています。



# 12月の予定

※下校時刻（予定）を載せました。子どもたちの交通安全等で声を掛けていただけるとありがたいです。

日	曜	予 定	元 氣 ア ツ 週 間	下校（終了）時刻
1	月	7ッ素洗口 干拓太鼓練習(4,5,6年)		1~3年 15:05 4~6年 15:50
2	火	全校朝会		1~3年 15:05 4~6年 15:50
3	水	地区子ども会 集団下校		全学年 15:20(集団下校)
4	木	冬道登下校開始(～3/6) 読み聞かせボランティア5年 ファミプレ		1年 14:45 2~6年 15:30
5	金	中学校入学体験(6年生) 学校評価保護者アンケート配付 PTA 広報部会		1~5年 15:05 6年 16:20
6	土			
7	日			
8	月	7ッ素洗口 学期末清掃① 補習(3~6年) 口座振替日		1,2年 15:05 3~6年 15:35
9	火	学期末清掃②		1~3年 15:05 4~6年 15:50
10	水	学期末清掃③		1,2年 15:05 3~6年 15:50
11	木	読み聞かせボランティア6年		1年 14:45 2~6年 15:30
12	金	学校評価保護者アンケート締め切り日		全学年 15:05
13	土			
14	日			
15	月	7ッ素洗口 干拓太鼓練習(4,5,6年)		1~3年 15:05 4~6年 15:50
16	火	短縮授業4限		全学年 13:35
17	水	短縮授業4限		全学年 13:35
18	木	短縮授業4限 給食最終日		全学年 13:35
19	金	2学期終業式		全学年 11:20
20	土			
21	日			
22	月	冬季休業(～1月7日)		

※学級終会等で、上記の下校時刻より多少遅れることがあります。

## 学校と家庭・地域をつなぐ



### 「魔法の言葉」

～なぜ、この子はこんなにいい子になったのか～



自分の子どもに、毎日「大好きだよ」と言い続けたら、とてもいい子どもになったという話を聞いたことがあります。万引きをしてしまった子どもを母親が抱きしめ、ただただ泣き続けたら、その子どもは二度と万引きをしなくなったという話もあります。

人に認められたり、褒められたりするとうれしくなります。自分の悲しみを知っていてくれる人がいる。何も言わずに寄り添ってくれる人がいる。自分の立場を無条件で支持してくれる人がいる。それだけで強くなれます。自ら伸びようとするエネルギーが生まれます。

このように子どもに向き合うことは、家族の皆様の存在の第一義なのだと思います。また、教師のあるべき姿だとも思います。

保護者の皆様も、私たち教師も、ほんの少しの勇気を出して、子どもに魔法の言葉と言われる「大好きだよ」と言ってあげてみてはどうでしょうか。

(教頭 飯塚 進)



